

ミナトホールディングス株式会社
2022年3月期 第2四半期決算説明資料

2021年11月10日

デジタルコンソーシアムで未来の社会を創造する

MINATO

証券コード 6862



CONTENTS

- ① 2022年3月期 第2四半期決算ハイライト
- ② 2022年3月期 第2四半期連結業績概要
- ③ セグメント別売上高／営業利益
- ④ ミナトグループの成長戦略
- ⑤ ミナト・トピックス
- ⑥ appendix

2022年3月期 第2四半期決算ハイライト①

売上高、利益水準ともに大きく躍進 上半期の売上高は過去最高を更新

- メモリーモジュール事業／デバイスプログラミング・ディスプレイソリューション事業が業績拡大に寄与、売上高は対前年同期＋117.9%

第2四半期売上高

(単位：百万円)



第2四半期利益

(単位：百万円)

	FY20/2Q	FY21/2Q
営業利益	△51	337
経常利益	△92	332
親会社株主に帰属する四半期純利益	150	301

2022年3月期 第2四半期決算ハイライト②

通期業績予想を修正 利益水準は前回予想2倍以上に

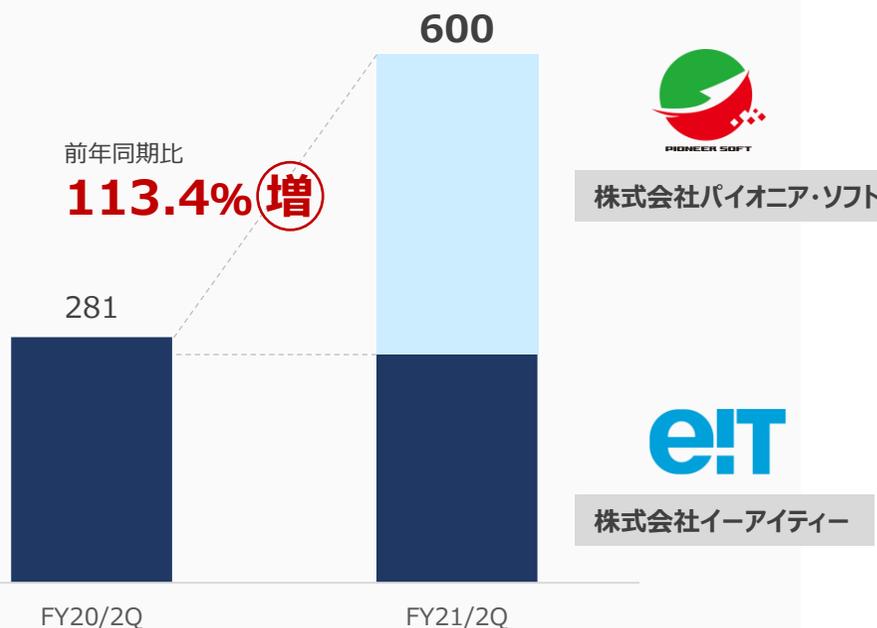
	前回発表予想 (百万円)	今回修正予想 (百万円)	2Q時点での 進捗率 (%)	<ご参考> 前期実績 (百万円)
売上高	20,000	22,000	52.3	15,920
営業利益	270	540	62.5	220
経常利益	240	510	65.1	199
親会社株主に帰属する 当期純利益	200	400	75.4	467

■ 今回の業績予想修正に伴う年間配当予想（6円）の変更はなし。

パイオニア・ソフトを連結 システム開発事業の業績拡大に寄与

(単位：百万円)

システム開発 売上高



株式会社パイオニア・ソフトのPLを当第2四半期より取り込んだことで、システム開発事業セグメントの業績が拡大。

両社の協業により、シナジー創出も実現している。



2022年3月期 第2四半期 連結業績概要

連結業績概要① / 損益計算書 (2021年4月1日～2021年9月30日)

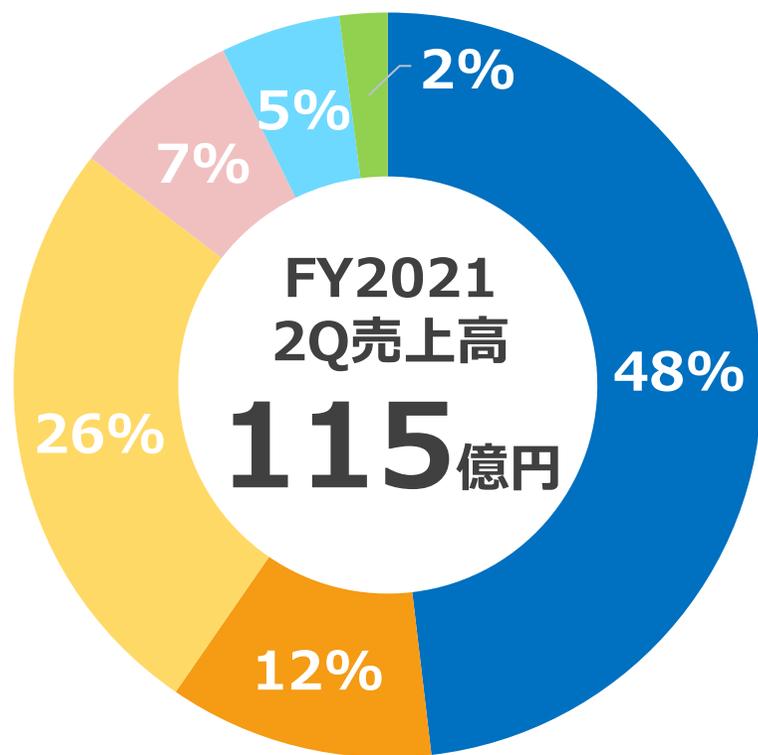
既存事業の回復と、M & Aによる連結範囲の拡大等により、前年同期比で大幅な増収増益を達成

(単位：百万円)

	FY20/2Q	FY21/2Q	増減額	増減率 (%)
売上高	5,278	11,504	6,225	117.9
売上総利益	607	1,989	1,381	227.5
販管費	658	1,651	993	150.8
営業利益	△51	337	388	—
営業外損益	△41	△5	36	—
経常利益	△92	332	424	—
特別損益	284	40	△244	△85.7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	150	301	150	100.0

連結業績概要② / セグメント別売上高 (2021年4月1日～2021年9月30日)

各セグメントの売上割合



セグメント別の売上高

(単位：百万円)

メモリーモジュール	5,586
テレワークソリューション	1,329
デジタルデバイス周辺機器	2,997
デバイスプログラミング・ディスプレイソリューション	851
システム開発	600
その他	241

連結業績概要③ / セグメント別営業利益 (累計)

(2021年4月1日～2021年9月30日)

中核であるメモリーモジュール事業の大幅増益とともに、デバイスプログラミング・ディスプレイソリューション事業の業績が大きく回復

(単位：百万円)

営業利益	FY20/2Q	FY21/2Q	増減額
メモリーモジュール事業	202	353	150
テレワークソリューション事業※	—	18	18
デジタルデバイス周辺機器事業※	—	△53	△53
デバイスプログラミング・ ディスプレイソリューション事業	△40	213	253
システム開発事業	22	41	18
その他事業	△18	△6	11
全社費用	△217	△228	△11
営業利益	△51	337	388

※テレワークソリューション・デジタルデバイス周辺機器の両事業につきましてはFY20/3Qから連結の範囲に含めているため、前年同期比がありません。

連結業績概要④ / 貸借対照表

パイオニア・ソフト連結と、メモリーモジュールや液晶ディスプレイ等での在庫確保により、BS規模は前期末よりも拡大

(単位：百万円)

	21/3末	21/9末	増減
資産の部			
流動資産	10,138	11,407	1,269
現金及び預金	2,382	2,497	115
売上債権	3,504	3,582	78
商品及び製品	2,412	3,166	753
原材料及び貯蔵品	789	816	27
前渡金	86	402	316
固定資産	2,486	2,465	△ 21
有形固定資産	1,334	1,306	△ 27
無形固定資産	283	294	11
（うち、のれん	238	259	21)
投資その他の資産	869	863	△ 5
（うち、投資有価証券	429	305	△ 123)
（うち、関係会社株式	1	—	△ 1)
繰延資産	0	0	0
資産合計	12,625	13,872	1,247

商品及び製品、原材料及び貯蔵品
メモリーモジュール事業 +316百万円
テレワーク・デジタルデバイス +452百万円

前渡金
メモリーモジュール事業 +292百万円

有形固定資産
デバイスプログラミング事業 +134百万円
土地建物売却 △112百万円

無形固定資産
パイオニア・ソフトのれん +35百万円
のれん償却 △16百万円

投資その他の資産
パイオニア・ソフト敷金他 +41百万円
株式報酬 +11百万円
投資有価証券売却・時価評価等
△98百万円

連結業績概要⑤ / 貸借対照表

製品在庫確保のための資金需要により短期借入金が増加。自己資本比率は25.9%（前期末比△1.2ポイント）

（単位：百万円）

	21/3末	21/9末	増減
負債の部			
流動負債	6,992	8,238	1,209
支払手形及び買掛金	1,424	1,210	△ 214
短期借入金	3,540	5,040	1,500
1年以内返済長期借入金	610	504	△ 105
固定負債	2,113	1,971	△ 141
長期借入金	1,772	1,708	△ 63
負債合計	9,105	10,210	1,067
純資産の部			
株主資本	3,347	3,472	161
その他の包括利益累計額	75	123	47
（うち、その他有価証券評価差額）	153	113	△ 40）
新株予約権	88	47	△ 40
非支配株主持分	7	18	11
純資産合計	3,519	3,662	179
負債純資産 合計	12,625	13,872	1,247

短期借入金	
ホールディングス	+1,390百万円
パイオニア・ソフト	+128百万円
約定弁済等	△173百万円

長期借入金	
ホールディングス	+160百万円
パイオニア・ソフト	+23百万円
アイティ・クラフト	+29百万円
約定弁済等	△275百万円

株主資本	
当期純利益※1	+301百万円
株主配当	△69百万円
自己株式	△60百万円
株式報酬	+33百万円
利益剰余金※2	△82百万円

その他包括利益累計額	
利益剰余金への振替※2	+82百万円
有価証券評価差額	△40百万円

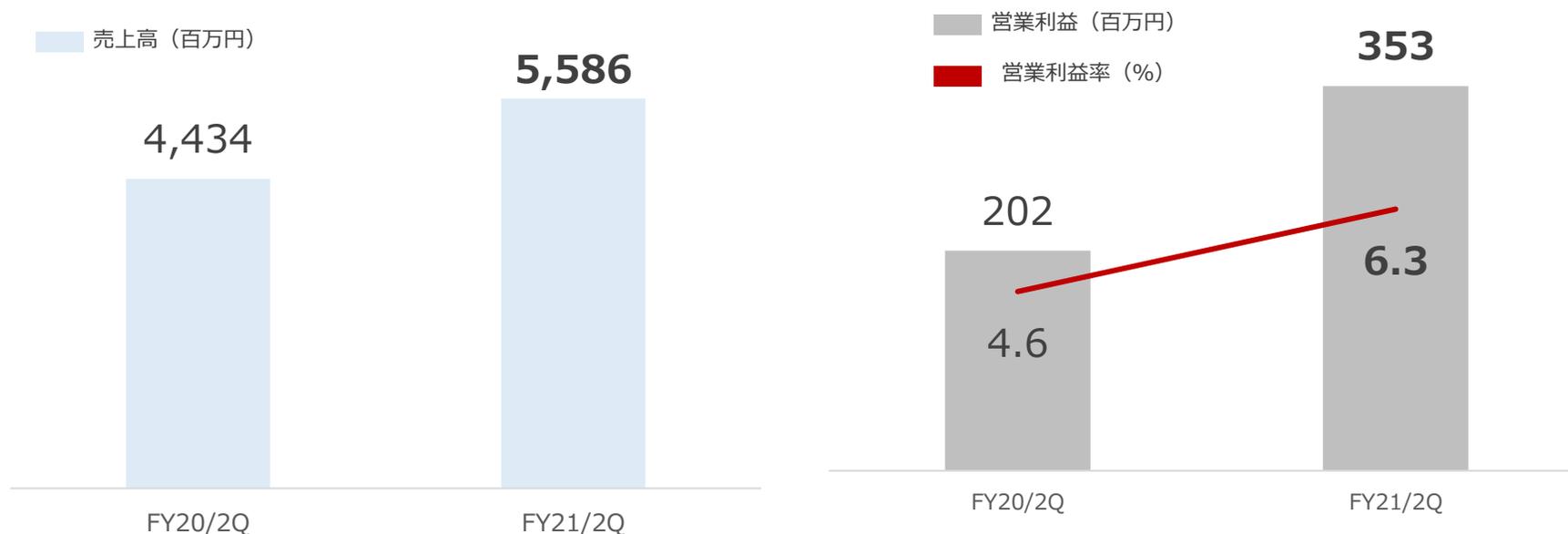
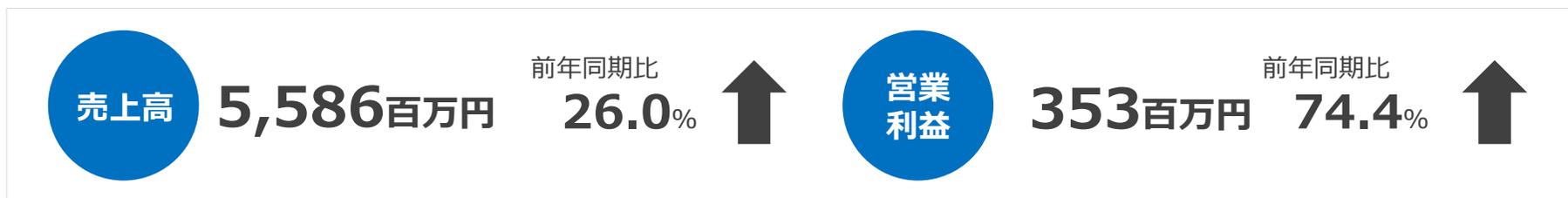
※1 親会社株主に帰属する当期純利益

※2 同一事象に係る同額での振替処理

3

セグメント別売上高／営業利益

世界的な半導体不足の影響で顧客企業による部材調達の意欲が継続。利益率の高い産業用途向け自社メモリーモジュールをはじめ、PC用途向けメモリーモジュールの需要も好調に推移し、増収増益



テレワークソリューション事業

Web会議ライセンス販売は堅調に推移。大都市圏で9月末まで緊急事態宣言等が発令されていたことで、「ハイブリッドワーク」の浸透が遅れており、オフィス据え置き型のデジタル会議専用端末の受注が伸び悩む



売上高

1,329百万円

前年同期比

-



営業利益

18百万円

営業利益率

1.4%

デジタルデバイス周辺機器事業

液晶ディスプレイの需要が旺盛で売上高は伸長。一方、半導体不足の影響による各種部材の調達に係る製品コストが上昇等で利益率は低く推移



売上高

2,997百万円

前年同期比

-



営業利益

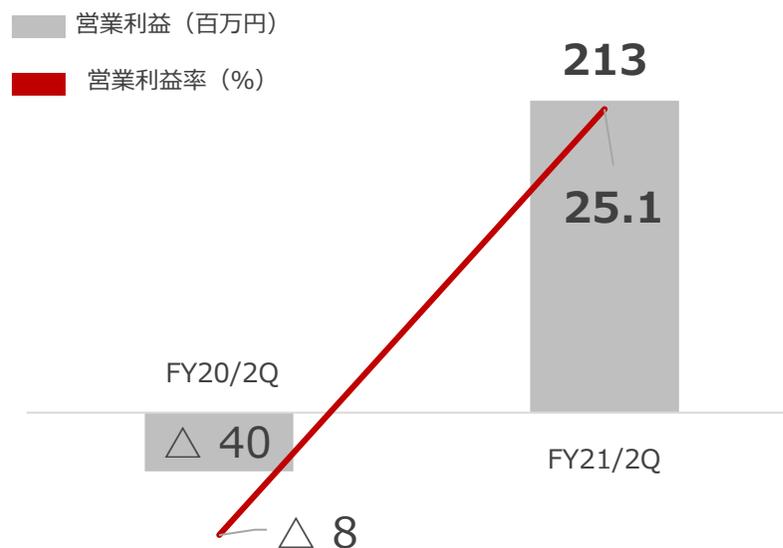
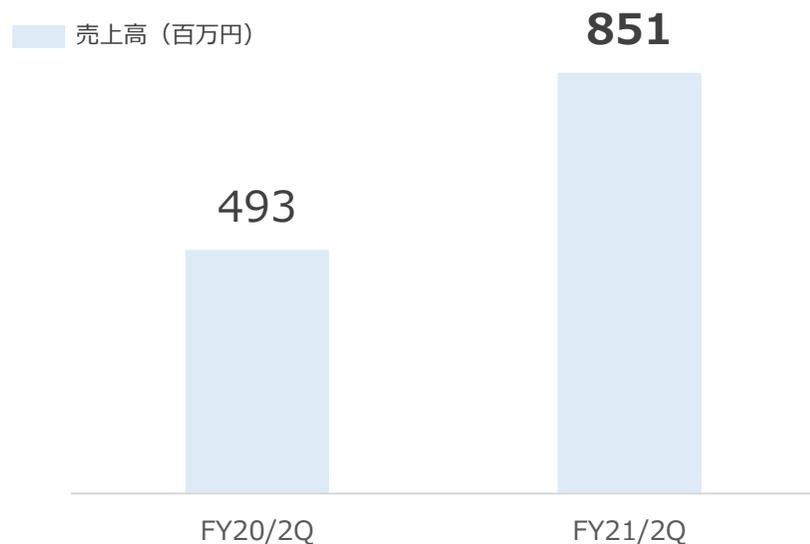
△53百万円

営業利益率

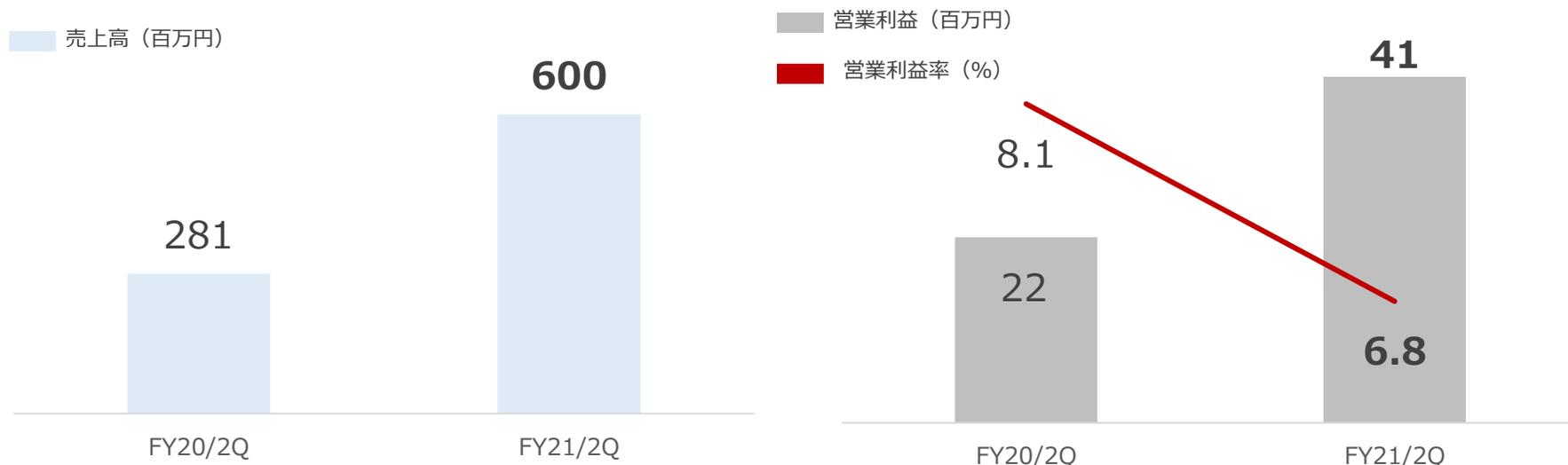
△1.8%

両セグメントともに季節要因があり、企業や教育機関等での需要が高まる下期での業績伸長を想定

コロナ禍による影響で落ち込んでいたデバイスプログラマ関連製品やタッチパネル関連製品の受注が好調。先行投資を行ってきたROM書込みサービスの稼働も順調



当第2四半期から株式会社パイオニア・ソフトの業績を計上したことにより事業規模が拡大。技術支援型（人材派遣）案件では株式会社イーアイティーとの協業が進み、シナジー創出を実現



その他事業

今年2月に子会社化した株式会社アイティ・クラフトと日本ジョイントソリューションズ株式会社は協業が進み、売上高は拡大傾向。インテリジェント・ステレオカメラ事業は引き続き投資が先行。



売上高

241百万円

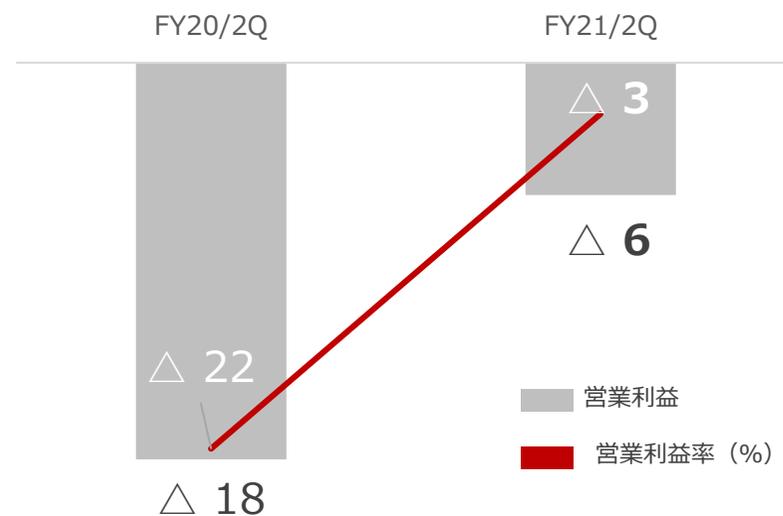
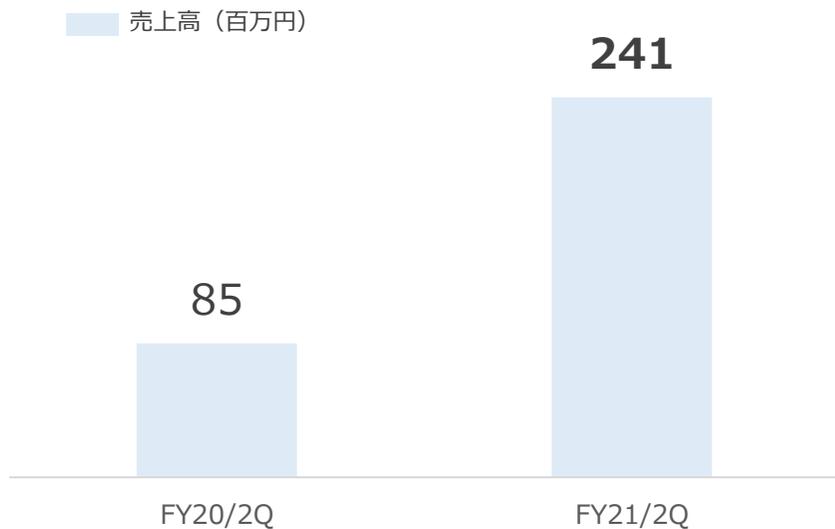
前年同期比
182.5%



営業利益

△6百万円

前年同期比
+11百万円





ミナトグループの成長戦略

ミナトグループの成長戦略

ミナトホールディングスグループは

デジタルコンソーシアム構想

の実現を目指します。



デジタルコンソーシアム（DC）構想とは…

1

デジタル分野に特化した技術力のある
企業との提携、M&Aを実施

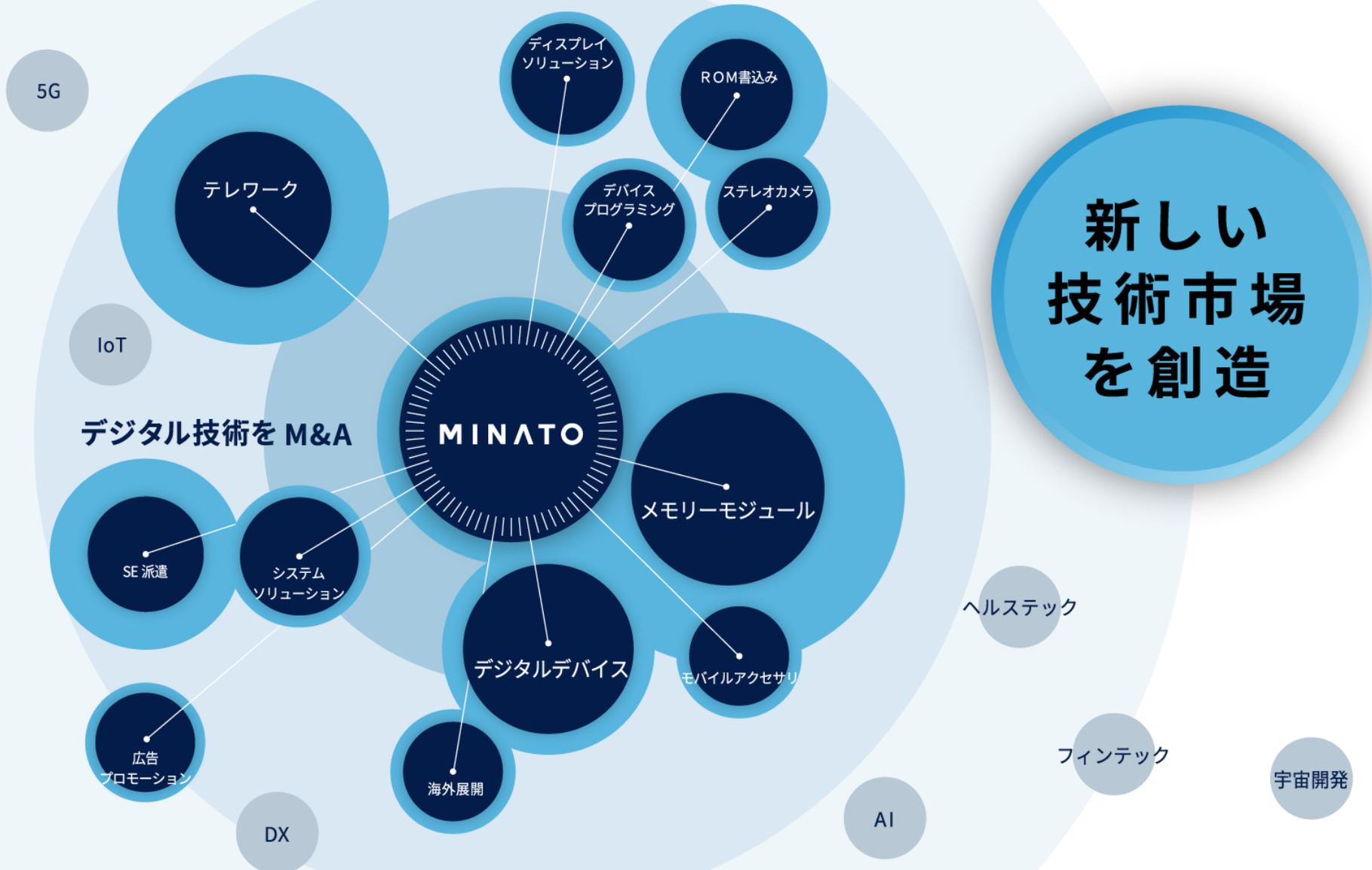
2

コンソーシアムの枠組みを強化することで
シナジーを創出
新しい製品やサービスの開発にも挑戦

3

新しい市場を開拓することで人や社会に
貢献し、持続可能な未来を創造する

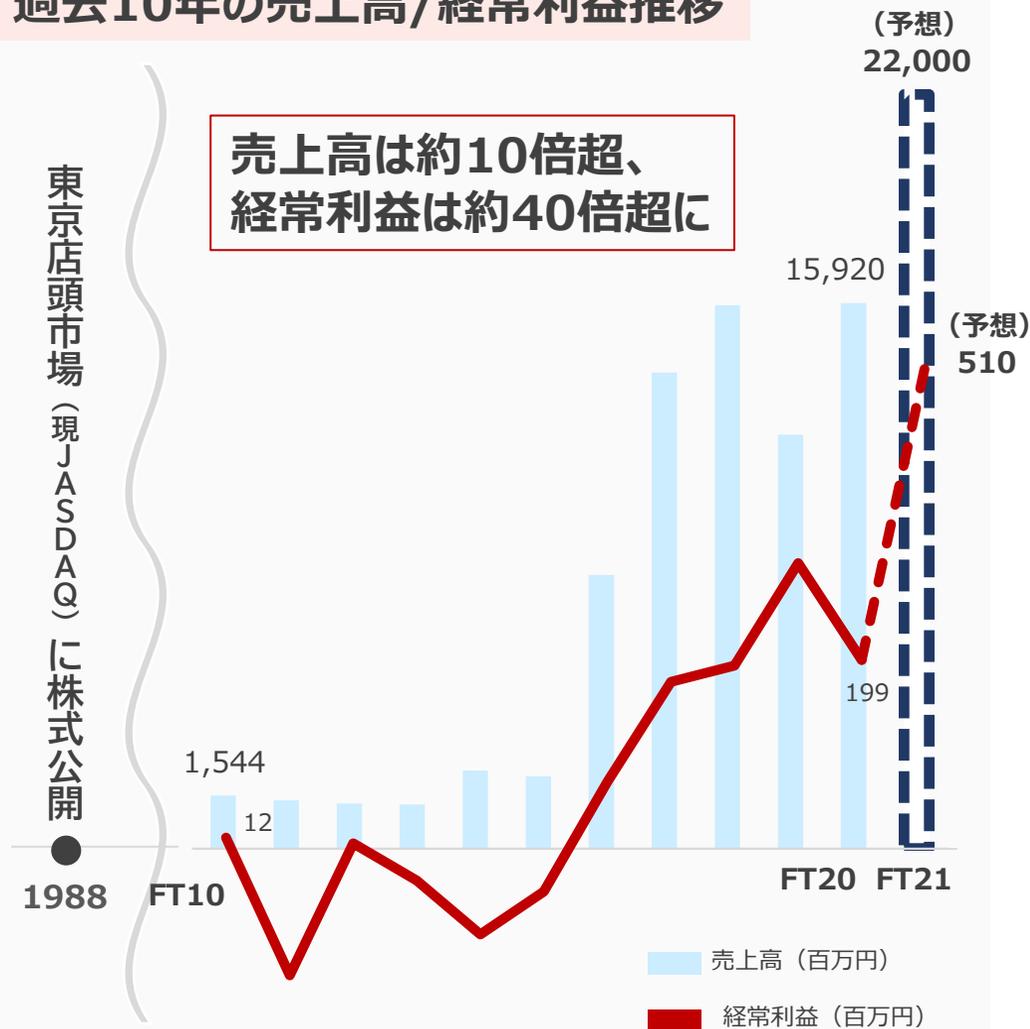
DC構想イメージ図



<ご参考> これまでのコンソーシアムの実績

グループ（国内）拡大の軌跡	
2014	イーアイティーを子会社化
2016	サンマックス・テクノロジーズを子会社化
2016	ミナト・フィナンシャル・パートナーズを設立
2017	日本ジョイントソリューションズを子会社化
2018	持株会社制に移行
2018	ミナト・アドバンスト・テクノロジーズ営業開始
2020	ジー・ワーカーを連結子会社化
2020	プリンストンを子会社化
2021	アイティ・クラフトを子会社化
2021	パイオニア・ソフトを子会社化

過去10年の売上高/経常利益推移



5

ミナト・トピックス

大型の自社株買いを実施

2021年8月24日開催の取締役会決議により、以下の自己株式の取得を実施

- 取得した株式の総数 当社普通株式 15万株
(発行済株式総数 (自己株式を除く) に対する割合 : 1.93%)
- 取得価額の総額 68,131,800円
- 株式を取得する期間 2021年8月24日から2021年10月15日まで
- 取得方法 東京証券取引所における市場買付け
- 理由 株主様への利益還元、M&Aにおける活用、当社取締役に対して交付する譲渡制限付株式への充当、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行

新市場区分は「スタンダード市場」を選択申請

2022年4月4日に移行が予定されている新市場区分について、当社は、2021年7月9日付で株式会社東京証券取引所（以下、「東証」）より、新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一次判定結果を受領し、「スタンダード市場」の上場維持基準に適合していることを確認いたしました。

この結果に基づき、当社は9月22日開催の取締役会において、新市場区分の実施日以降に当社が所属する市場区分として「スタンダード市場」を選択することを決議し、東証に対して申請を行いました。

クーピーペンシルそっくりアクティブスタイラスペン 発売開始



スマートフォンやタブレット端末に使うタッチペンの老舗ベンダーである株式会社プリンストンは、「クーピーペンシル」とコラボした、新型モデルのアクティブスタイラスペンの販売を開始しました。

クーピーそっくりの質感や色合いが話題となっており、予約も好調です。

■ プリンストンの自社ECサイト「プリンストンダイレクト」等で取り扱い中

<https://www.princeton-direct.jp/shopdetail/000000005261/>

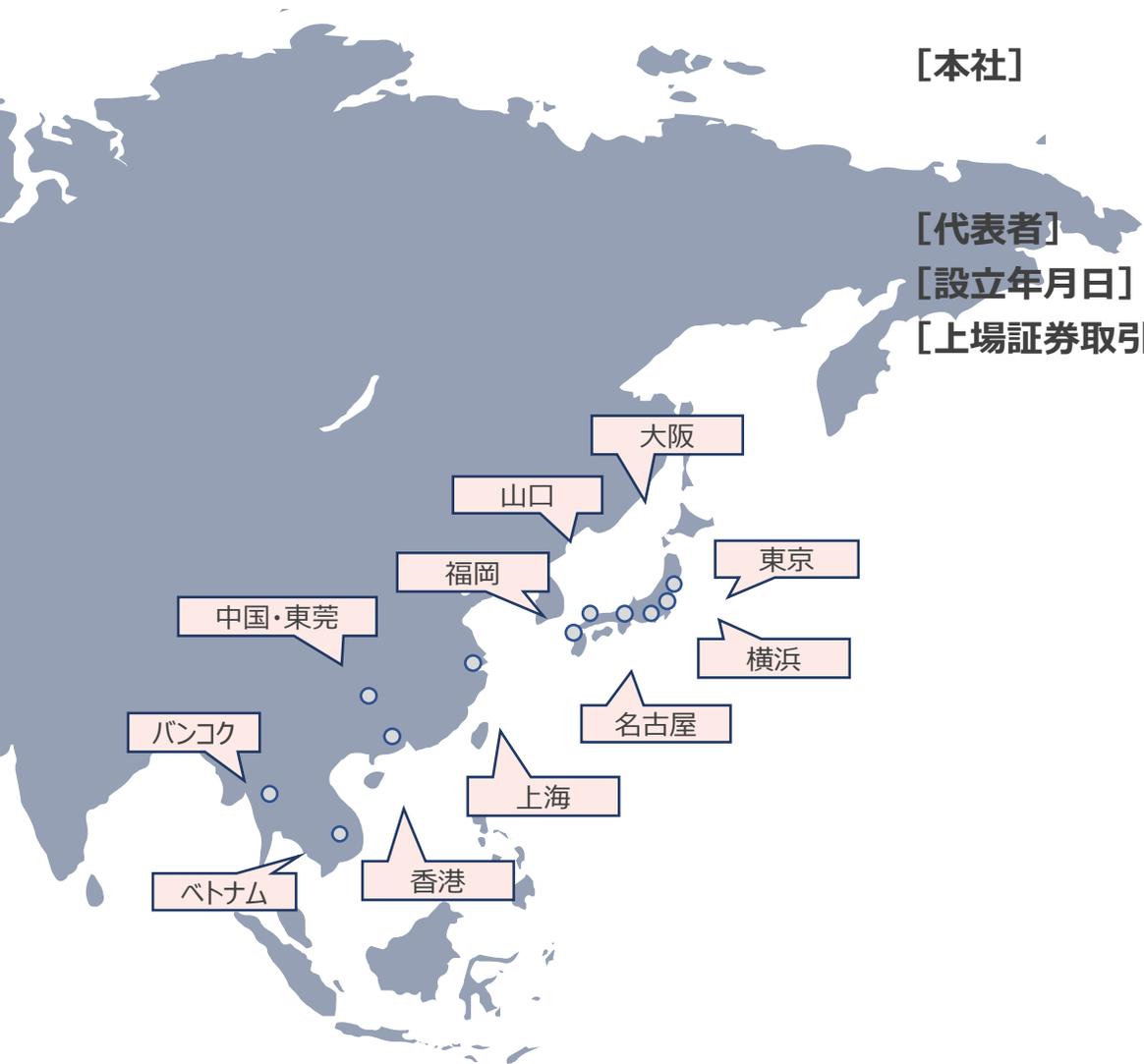


appendix

会社概要

ミナトホールディングス株式会社

[本社]	〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-2 古賀オールビル6階
[代表者]	代表取締役会長兼社長 若山 健彦
[設立年月日]	1956年12月17日
[上場証券取引所]	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)



資本金 1,062,673千円

拠点 4か国11拠点

役職員数 約530名 (連結)

グループ会社



サンマックス・テクノロジーズ株式会社
メモリーモジュール事業



株式会社プリンストン
テレワークソリューション事業
デジタルデバイス周辺機器事業



ミナト・アドバンスト・テクノロジーズ株式会社
デバイスプログラミング・
ディスプレイソリューション事業
インテリジェント・ステレオカメラ事業



ジー・ワーカー株式会社
モバイルアクセサリ事業



株式会社イーアイティー
システム開発事業



日本ジョイントソリューションズ株式会社
ウェブサイト構築事業
広告の制作プロデュース事業

(海外)

港御（上海）
信息技术有限公司
デバイスプログラマ



ミナト・フィナンシャル・パートナーズ株式会社
財務コンサルティング事業
太陽光発電事業



株式会社パイオニア・ソフト
システム開発事業
イーアイティーとの経営統合を目指す



株式会社アイティ・クラフト
システム構築・SE派遣事業

港御（香港）
有限公司
デバイスプログラマ
メモリーモジュール

メモリーモジュール事業



サンマックス・テクノロジーズ株式会社^他

- 産業機器用途向けコンピューター記憶装置（DIMM）の設計・製造・販売ノウハウを持ち、大手電機メーカーや半導体デバイス商社等へ販売
- PC、サーバー、MFP(多機能デジタル複合機)、POS、ATMなど用途は多岐にわたり、全数検査による高品質の製品供給が強み

DIMM（Dual Inline Memory Module）

複数のDRAMチップを基盤上に搭載したメモリーモジュールのこと。コンピューターのメインメモリとして利用。
サンマックスはDIMMの主要調達部材であるDRAMの調達に優れており、DIMMの開発・製造・販売までを一貫して手掛けている。



SSD（Solid State Drive）



株式会社プリンストン

- テレビ・Web会議等のデジタル会議システム関連機器の販売及び保守サービスやライセンス販売等、ソリューションサービスを展開

米国Poly社及びシスコシステムズ社の国内有力パートナーとして長年にわたり構築してきた販売・保守サポート体制が大きな強み

クラウドサービスとして、各ブランドライセンスも取り扱い



ビデオ会議用ハードウェア (Poly)



大会議室用オールインワン会議システム (Cisco)

BlueJeans

CISCO
Partner
Premier Certified

Cisco Webex

zoom

株式会社プリンストン

- eスポーツ関連製品、メモリー、PCやスマホ等デジタルデバイスの周辺機器販売等を展開
- 自社ECサイト「プリンストンダイレクト」 (<https://www.princeton-direct.jp/>) の運営

eスポーツ市場向けのゲーミング関連



左：ゲームの世界に没入できる高スペックゲーミングヘッドセット
右：プリンストンオリジナルゲーミングブランド「ULTRA PLUS」

「GIGAスクール」向けのツール



左：端末を落下や衝撃から守る耐衝撃ケース
右：画面に直接ペンで記入できるiPad専用充電式タッチペン

デバイスプログラミング・ディスプレイソリューション事業

ミナト・アドバンスト・テクノロジーズ株式会社他

MINATO

ミナト・アドバンスト・テクノロジーズ

- 1956年設立の電子機器製造メーカー。
- デバイスプログラマや自動プログラミングシステムの設計・販売のほか、ROMやCPUへのプログラム書込み事業（ROM書込みサービス）、タッチパネルやデジタルサイネージ関連機器の企画・設計・販売を手掛ける。

デバイスプログラマ

ROMやCPU等のデバイスにデータを書込むための装置。
MATは1973年に国産初のデバイスプログラマを開発するなど、この分野のパイオニア。



ROM書込みサービス

デバイスプログラマを利用し、デバイスへの書込みサービスを展開。「自動プログラミングシステム」では大量の書込みを自動で行うことができ、大規模受注にも対応可能。

2021年4月からサムスン株式会社、株式会社トーマンデバイスと3社共同で書込みプロジェクトを本格推進中。



システム開発事業

株式会社イーアイティー／株式会社パイオニアソフト

- 株式会社イーアイティーと、2021年4月末に連結子会社化した株式会社パイオニア・ソフトが、システム開発業務を手掛ける
- 両社にて、営業面および管理面における協業を推進

株式会社イーアイティー



- システムエンジニアリングサービス
(WEBシステム・汎用系システム・ERPの開発、データベース・ネットワークの構築等)
- 各種システムの一括受託

株式会社パイオニア・ソフト



- ERP、EC、証券業務等、大規模業務システムの受託開発事業
- セキュリティ・コンサルティング事業

その他事業

成長分野で積極的に事業推進

日本ジョイント
ソリューションズ(株)



(株) アイティ・クラフト



- ウェブサイトの構築や広告の制作プロデュース
- セールスプロモーション、マーケティングのコンサルティング業務
- システム構築、技術者派遣

ミナト・アドバンスト・
テクノロジーズ (株)



- インテリジェント・ステレオカメラ事業
- 環境エレクトロニクス事業（LED照明の受注販売など）

ミナト・フィナンシャル・
パートナーズ (株)



- 財務コンサルティング、ファイナンスアドバイザー関連業務
- 太陽光発電事業（福島、群馬にて売電中）

ジー・ワーカー(株)



- モバイルアクセサリ等の販売

その他事業（インテリジェント・ステレオカメラ）

ミナト・アドバンスド・テクノロジーズが開発推進するカメラセンサー

- 業務提携先の東工大発ベンチャーITD Lab株式会社と連携した、測距、形状認識を高速で行う高性能2眼カメラセンサー
- 無軌道搬送機（AGV）等の自動運転、障害物センサー、産業用ロボット等の多分野での活用が期待。顧客のニーズに合わせた新型機の開発も進行中
- 株式会社アラヤとの連携により、ディープラーニング技術も導入



インテリジェント・ステレオカメラ「ISC-100VM」

デジタルコンソーシアムで未来の社会を創造する

ミナトホールディングス株式会社

JASDAQスタンダード：6862

<https://www.minato.co.jp/>

IRに関するお問い合わせ・各種取材のお申込みは、
広報マーケティンググループまでお願いいたします。

TEL:03-5847-2030 MAIL:mnt_ir@minato.co.jp

免責事項

- 本資料は、ミナトホールディングス株式会社並びにその子会社及び関連会社（以下合わせて「当社」又は「当社グループ」）に関する情報を提供するものであり、いかなる投資勧誘を構成するものではなく、またいかなる投資勧誘とみなされるものでもありません。
- 別段の記載がない限り、本資料に記載されている財務データは日本において一般に公正妥当と認められている会計原則に従って表示されています。
- 過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社の将来の実績の予測又は予想を示すものではなく、またその推定を示すものでもありません。
- 本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた当社グループの現在の前提及び見解に基づくものであり、将来の業績の保証を意味するものではありません。また当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。